

本日も熊本労災病院のHPを訪れていただき、感謝申し上げます。

まず、1月24日以降当院にて発生したCOVID-19クラスターにつきまして、皆様にたいへんなご迷惑、御心配をおかけしましたこと、深くお詫び申し上げます。ご承知のように、なお感染は猛威をふるっており、熊本県でも、これまでに県民40名に一人の割合で感染したようです。今回のクラスターの発生も、感染経路の探索は尽くしましたが、ひとつに特定するに至りません。しかし、院内になんらかの形で侵入し、患者様と職員に広がったのは事実です。これまで短時間でも会っていただく時間を作りたいと、ご家族と患者様の病棟内での荷物の受け渡しを行ってきましたが、クラスター発生を契機に、曜日を限った、病棟エレベーターホールでの荷物の受け渡しとし、病室内でお会いできないこととしました。歩ける方はWi-Fiのつながる談話室までお出でいただき、スマホなどでの面会をお勧めしますが、歩けない方や高齢者には、iPad面会などの対応を今後検討したいと思います。また、入院に際して、全員にPCR検査を行う事としました。検査開始後、実際に陽性者も発見されており、それだけ感染が市中に蔓延しているわけですが、入院が決まりましたら、普段よりさらにご自身の健康管理に努めていただくようお願いいたします。

当院では、発熱外来の実施、陽性患者さんの入院受け入れに加え、近隣高齢者施設でのクラスター発生などに際して、感染対策ナースが、保健所のかたとともに、感染管理のサポートに伺うことも増えました。今後とも、新型コロナウイルス感染対策に広くお役に立てればと思っております。

北海道や北陸では、今年は記録的な豪雪です。東京では、数センチの雪予報で高速道路やJRがすぐ運休になりますが、備えは盤石と思われる北の地方でも、想像を超える雪で混乱しているようです。国鉄からJRにかわり、除雪機械も進化して人手をかけずにたくさんの雪かきができるようになったのでしょうか、札幌で雪に埋まった線路を数人くらいで掘っているのをニュース映像でみて、「昔は、保線区員だけでなく自衛隊なども含め、すごい人数で線路の雪掘りをやってたのに」と感じました。ちなみに、雪で覆われた線路は上に乗るとつるつる滑ってたいへんで、雪掘りにもそれなりの技術が要ります。悪いときに備えて余裕をもった体制を組んでおく、という考え方は、いつ

の頃から、「無駄」や「余剰」という言葉に押されて衰退し、いざとなったらバイトを雇えばいいとか、機器の工夫やITで補うとか、というのが今風の考え方のように感じます。「想定外の事態」といえばそれまでですが、COVID-19での保健所対応同様、少なくとも、状況に応じて機敏な解決が図れるように、普段からみんなで少しずつ負担を分け合って準備し、共助の体制を整えておくことも、貧乏で余裕のない日本では、あらゆる面で必要なことと思います。世界を見れば、「自分さえ良ければ」という風潮が広まっているように思います。天皇陛下が、今年のお誕生日に際して、「国や地域の境界を越えて人々や社会がつながり、お互いを認め合い、支え合える年になってほしいと願っています。」と述べられています。支え合いながらみなで切磋琢磨し、自己を高めていくことは、行政にも、病院にも、各職員にも必須のことです。熊本労災病院は、これまでも増して、地域のかたや勤労者のためにいっそうその役割を高め果たしたいと思います。

年度末も近づき、初期研修医2年生が巣立つ時期を迎えました。折悪しくCOVID-19蔓延の2年間に当たり、院外でのコミュニケーション=飲み会、も満足にできないまま研修に没頭し、7名全員が、熊本大学の希望する医局に進みます。熊本労災病院で過ごした同期の絆を一生の宝物にしてくれればと思っています。当院は、最近、NPO法人卒後臨床研修修評価機構の認証をうけ、その安定した研修指導体制が公的にも評価されました。次年度も、8名の新入研修医を迎えます。若い医師たちは、これからの病院の、そして医療界の宝です。大切に育てます。

構内のさくらのつぼみはまだ固いですが、少し膨らんできました。春とともに、忌まわしいウイルスが雲散霧消することを願っております。皆様も、今しばらく、気をつけてお過ごしください。